【カマタマーレ讃岐賞】

「ニックネームの力」

三豊市立仁尾中学校　二年　西山和希

ニックネームは僕たちの日常で身近に使われる呼び名です。その軽やかな響きや親しみやすさが、人と人をつなぐ役割を果たしています。しかし、時には人を傷つける刃にもなり得ます。

「気にしない、気にしない。」「大丈夫だよ。」と親や先生たちに言われても自分はそうは思えないことがありました。ニックネームで呼ばれるたびに嫌な気持ちになることがあります。友達は親しみを込めて言っているのかもしれない、いじられることはおいしいことなのかもしれないと、良いように捉えようと周りは言うけれど、自分が気にしていることをニックネームにされると呼ばれるたびに微妙な笑顔で返しながらも心の中では「嫌だな」「傷つくんだけどな・・・」と思っていました。最初にも言いましたが、ニックネームって仲の良い友達の証、親しみや呼びやすいなどの役割があると思うけれど、時には人を不快にさせることもあります。

僕のニックネームはその時々でいろいろと呼ばれるけれど、嫌だなと思うのは見た目でついたニックネームです。僕はどちらかというとぽっちゃりしています。自分でも気にしていて痩せればいい話だとも思いますが、言われたときにすぐにどうにかできるものではありません。そのニックネームを呼ばれたときに不満な顔はしたけれど、「関係が崩れたらどうしよう」「その場の雰囲気が壊れたら、空気読めんやつって言われるからなぁ・・・」と思ったら何も言えませんでした。でも呼ばれる頻度が多くなるにつれストレスが溜まり、朝起きると「今日もまた言われるのかな、学校行きたくないなぁ」「なんで僕ばっかり言われるんやろ」「僕の気持ち少しでも考えたことがあるんか」と怒り

を感じたりもしました。その嫌な経験を通して僕は自分の言動についても振り返り考えることができました。

自分が楽しくなってテンションが上がった時に周りの友達とつい言ってしまった出来事がありました。仲のいい友達なのについはしゃいでいじってしまったことがあります。その時、彼は泣いてしまいました。すぐに謝ったので許してくれたけれど、きっと嫌な思いをしたことは僕のように後になっても覚えているのだと思います。僕はあの時泣かせてしまったことは鮮明に覚えていて反省したけれど、どんなことを言って彼を傷つけたのかははっきり覚えていません。きっと、僕に嫌なニックネームで呼んだ友達も深く考えてはいないと思います。でもあの時僕がきちんと嫌だということを言っていれば、辛い気持ちを表に出していれば僕のように後から「悪いことをしたな」と反省してくれたかもしれません。僕は自分の経験した嫌な思いを相手に嫌な思いをさせてしまったことで、時にはニックネームが悪気はなくても相手を傷つけてしまうことがあるということを身をもって学ぶことができました。また、我慢をすることでその場をやり過ごすのではなく、仲の良い友達だからこそ自分の思いを相手に伝え、相手に気づいてもらう努力も必要だと思いました。

ニックネームは慎重に扱わなければ時に人を傷つける場合があることも学びました。しかし、適切なニックネームを使えば、親しみやすさや絆を強くする手段にもなります。僕は部活で他校の選手と交流することが時々あります。その時にお互いにニックネームで話すことで少ない関わりの中でもすぐに仲良くなり、次に会ったときにお互いに協力して一つのことに取り組み、お互いに励まし合えたという経験がありました。このように思いやりを込めて適切な呼び方ができれば、人間関係はうまくいくのだと思います。

ニックネームは僕たちの個性や関係性をわかりやすく表現する一方

で、そこには名前以上の意味が込められています。これを考えると、僕たちが日常的に使う言葉や行動にも同じような影響があるのではないでしょうか。名前や言葉が持つ影響力を生かすために、これからは自分の選ぶ言葉やニックネームについてもう少し深く考えていきたいと思います。特に人と人とのコミュニケーションにおいては、ポジティブで温かみのある表現を意識することで相手を尊重し、良い関係性を築くことができるのではないでしょうか。そのために言葉に込められる意味を見つめ直し、日常的な会話の中で自分らしさや思いやりを伝えられる工夫をしていきたいと思います。